

昭和四十七年七月六日

1981年8月発行

熊本県天草郡倉岳町



碑

罹災した。 総額七十三億円に達する大災害となって陸の孤島と化し、町民悉く 流失・埋没百二十四へクタール、道路・橋梁も各所で損壊し、 家屋六十戸、床上浸水百二十八戸、床下浸水九百六十三戸、耕地の らし 上岛五町では随所に山津波が起こり、倉岳町でも死者二十九名 八時頃から正午頃迄三百二十粍に及ぶ千古未曽有の集中豪雨をもた (浦地区で十三名、宮田地区で十六名)、 全壊家屋七十四戸、半壊 昭和四十七年七月六日 上天草山系に遮ぎられた梅雨前線は、午前

安らかならん事をお祈りし、災害復興に貢献された関係各位に深甚 名殉職。同警察官二百八十名。郡内消防団員他多数) られるに至った。(救助に派遣された自衛隊員于四百六十名、中一 努力によって災害復旧工事は完成し、陸に海に活気溢れる生業をみ れるや町民の災害復興への意欲が燃え上がり、人機一体の血の滲む 設け救助活動を開始し、国や県及び全国各地から救援の手が延べら なる敬意と感謝を表し、永へに故郷の山青く、海清き、大空の下に 呆然自失、為す事を知らざりし有様の中、倉岳町災害対策本部を 茲に水害十年目を迎えるに当たり、犠牲となられた方々の御霊の

昭和五十六年七月六日

建てる。

栄えゆく人々の上に、護郷・防災の鎮めたることを希うて此の碑を

厒 ĦŢ 貶 坂 本

Û

倉岳町議会議長 吉 末

啓 春

民 同 同

「水害復興碑」碑文より

他

MJ

1

発刊にあたって

倉岳町長 坂 本 末 春

一九七二年七月六日、当町を含む上天草五町を襲った極地的集中豪雨は、 天草島土木史上か

耕地面積の六○%が流失埋没、更に道路、通信等寸断され総額七十億円という、すさまじかっ つてない土砂流となり、壊滅的な災害を受けたのであります。 町の被害状況は後述いたしますが、尊い犠牲者二十九名、全戸数の九八%近くが全半壊浸水、

位の挙町一体による復旧作業へ四ケ年の協力を費やし、ただ今ご覧のとおり一面に広がる稲田 は黄金の穂波を漂わせ、基盤整備やかん排事業も整然として進み、ふるさとは甦って参ったの た惨禍も昨日のように思い出されるのであります。 国、県の格別な財政援助、県内外各種機関団体等から総動員しての救助活動、

でありまして、ご厚意寄せていただいた皆様に謹んで謝意と敬意を申し述べる次第であります。 古いことばではありますが「災害は忘れた頃にやってくる」といわれています。 今回の災害を通じて特に痛感いたしましたことは、砂防災害の恐しさということであります。

土砂流の巨大なエネルギーであります。 わが町の土質、地形等を生態学的に専門家が推理された学説によれば、

あらためて砂防事業

の重要性を認識したのであります。 **麥慘を極めた当時の実感も日毎に年毎に、人々の脳裡から忘れ去られようとしているとき、**

興への節目としても意義深いものがあろうかと思いまして、あの日から十年目の本日を朴し

悲しみと、苦しみと、復旧への喜びを後世に遺し郷土の無限の発展に祈りをこめて、復旧と復

七・六水害誌」を編纂いたしました。

今後ともよろしくお力添え賜りますようお願い申し上げます。 終わりに、発刊に際し資料提供いただきました関係各位に厚くお礼申し上げますとともに、

そして町民各



豊かな町づくりを

介岳町議会議員 吉 森

啓

林、田畑の流出など莫大な被害を受けたことは、誰しも忘れようとしても忘れられるものでは ありません。ほんの一瞬にして変わり果てた光景を目のあたりにして私も呆然と立ちすくんだ 去る四十七年七月六日の大水害によって我が倉岳町は、多くの死傷者を出し、また家屋や山

こういった大惨事を繰り返すまいと痛感しました。 皆様が町の復興のために日々労力を使い果たし大変な苦労をされるのを見ながら、私は二度と あの悪夢のような出来事から九年を経過したわけでありますが、その間、

のを覚えております。

たされたのです。 る、すなわちこれから先、いかにして豊かな町づくりに取りくんでいくか、その出発地点に立 暮れた九年間もの歳月の思いを今こそ将来の町の発展に向けて、持てる力を遺憾なく発揮させ が、私はこれで満足していては本当の復興とはいえないのではないかと思います。復興に明け 我が倉岳町の産業は、やはり農業・漁業を主体として発展させなければならないのですが、 現在、ようやく町も落ち着きをみせ、田畑や河川・道路の復興作業もほぼ終わったわけです

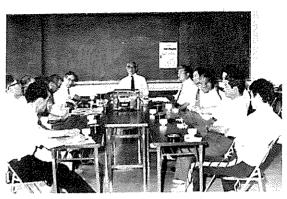
豊かな町づくりに生かして行きたいと思います。 んでいく必要があるのです。 ここにささやかながら、水害小誌を発刊し、私自身あの大災害によって得た教訓を、今後の

そのためには、今後幾多の問題に出会うと思います。そんな時こそ、町民一体となって取りく

町民のほとんどの

もくじ

目で見る倉岳水害(写真編)	救援物資	義 撄 金	除幕の日まで 福田信行 28	悲録・倉岳水害 山 崎 龍 瑞 24	上天草地区出動の記 中 西 新 22	47・7・6から8・19まで	部門別被皆調	犠牲者名簿	座談会 47・7・6水害	豊かな町づくりを 吉森 啓 3	発刊にあたって 坂 本 末 春 2
38											



(元建設委員)

雄

吉

谷

(元建設課長)

Ш

(元消防団長)

坂

本 (現介店

末

司 会

福

稲

吉

田 IJ

(企画開発課長)

Ш 藤 平 松 窥 (元議会議長) (元宮田三区長) 嗣

利

(元総務課長) 勝

(元建設委員) (被災者代表) 秋 正 利 義

大

長

(元住民課長) 別 明

未 曽 有 の 大 il)

もは、 念碑を建立いたしました。 されないように、所謂復興の祈りを含めながら、最近水害復興の記 坂本 七・六水害からちょうど十年目を迎えておりますが、 あの悲劇、 惨状を後世に伝え、再びあのようなことが繰り返

味でも、 をいただいておりますので、これらのご厚意にも応え、また自衛隊 場でど苦労された方々ですので、水害時の記憶を呼び起こしてもら けです。今日、お集まりいただきました皆様は、当時それぞれの立 しくお願いします。 や警察、さらには医師団の方々の活躍に心から感謝を申し上げる意 い先訓となるような、あるいは全国からたいへんな見舞いや寄付金 同時に災害の歴史を編集して、これまた後世に残しておきたいわ 貴重な体験をお話していただきたいのです。どうぞ、よろ

候などについて、口火を切っていただきましょうか。 残念です。それでは、消防団長であられた山並さんに災害当時の天 まして、当時たいへんな苦労をされた山畑さんのお話が聞けなくて さんから、急用ができてどうしても出席できないという連絡があり 福田 私がいちおう司会ということですが、先ほど前町長の山畑

場で設置するために朝八時に家を出たわけですが、その時分から、 ことでたいへんな大雨でした。六日の当日、私は災害対策本部を役 水害前の三日間ほどは、 時間降雨量九〇ミリというような

ような豪雨だったと思います。の屋根から流れ出る水を槌が受けられずにオーバーしていたというオートバイで役場に来るのに道路いっぱい川みたいな状態で、役場

策本部をつくるということで役場に馳せ参じたわけです。おりますが、消防団としては当然、警報がはいった場合にはその対大雨洪水の警報に移ったのが多分、朝の六時頃だったと記憶して

福田雨の降り方がたいへん異常でございましたが。

で、納戸から抱いて連れ出したのです。けです。その人たちを助けて、家の中にまだ子供がいるということ

どい雨でしたよ。そこでロープを引っ張ってどうにか渡りましたが、それくらいのひそこでロープを引っ張ってどうにか渡りましたが、それくらいのひ付近までくると、棚底川の水が流れとんでいて渡れない状態です。ある程度水が引いたものですから、四、五人肩を組み合って大原

かったそうですから。(古田)とにかく一番ひどかった時、私の家から丸山が全く見えな)

を弁ぜずという言葉で表現できる天気だったですね。
一時前後の雨は、誰でも記憶にあると思いますが、バケツで汲んで一時前後の雨は、誰でも記憶にあると思いますが、バケツで汲んででは六〇〇ミリという記録が残っております。あの水害の起きた十では六〇〇ミリという記録が残っております。あの水害の起きた十

です。持ちこたえられずに鉄砲水が吹き出したということでしょう。り、山に水をいっぱい含んでいたんでしょうな。そこに六日の豪雨平 今の松本さんのお話のように四、五日前から相当の雨量があ

かったということですが。 坂本 当時の記録では、六日の十時から十一時頃までが一番ひど

が二十センチはありましたね。私の家は川の側にあるので、これは藤川 私は、宮田出張所にいて十時頃県道を見たのですが、水嵩

ところが、目の前に南平の田口伊勢由さん夫婦と牛が流れていたわ

危険でもあるということで小高い八幡様に避難しようとしたのです。

見ると棚底川が氾濫したのか水一面で、これ以上は先に進めない、

で行ったのですが、そこも一面水浸しです。棚底にはいり、

前方を

すよ。山津波、ほんとうに水がもりくってくるのですから。とで、外を見たところ、川上からどんどん材木が流れてくるんでにやっているんですな。これでは逃げるより他に方法はないといういけないと、家に行ったのですが、ほんとうに我家を打ち流すよう

ましたが、最初は何であるか想像がつかなかったですね。 松本 私も助役の家の前の川に材木がうず高く積っているのを見

かったですね。まさか家が流れてくるとは………。が流れてくるな、いったい誰が流したのだろうかぐらいしか思わなが流れてくるな、いったい誰が流したのだろうかぐらいしか思わな

「助けてくれ!」の電話、しかしプツリと…

ができないような犬悲でなった。 お時、役場には円筒形の簡易雨量計が据え付けられてあっ

山下

たのですが、あとでは全然測定ができないような状態になったができないような状態になった時 かしてくれという要請が頻繁に ありましたのです。役場を出て上 とにしたのです。役場を出て上 場部落に行こうとしても棚底中 快線は、水量が膝まであってそ

っているのは、十一時ちょっと過ぎ、宮田のほうから「助けてくれー一今考えてみると想像もつかないような雨でしたが、一番記憶に残れがどんどん流れてくるので通れなかったわけですね。

福田 長尾さんは、おかあさんを失われ、家までも流され、長尾

さん自身も九死に一生を得られたわけですね。

以来、町内の有線放送は全く連絡が途絶えてしまいました。

と女の方から電話があり、それがプツリと切れてしまったことです。

田んぼのあぜを越えて川のように流れていましたね。田んぼのあぜを越えて川のように流れていましたね。 それで、九時半頃に家を守るために帰り、一応家にいれば大とで、四、五名で行ったのですがすでに手に負えない状態だったでとで、四、五名で行ったのですがすでに手に負えない状態だったでとで、四、五名で行ったのですがすでに手に負えない状態だったでよった。 それで、九時半頃に家を守るために帰り、一応家にいれば大まだろうと家にじっとしていました。その時、すでに水は周りの丈夫だろうと家にじっとしていました。その時、すでに水は周りの丈夫だろうと家にじっとしていました。

稲株をつかまえて立とうとしても立てなかったです。それでも何とました。私も直線で二百メートルぐらい流されました。流れた先でみたところ、一瞬、ドオーッときて家が浮き上がったみたいになっみたところ、一瞬、ドオーッときて家が浮き上がったみたいになっからない、ちょうどトンネルにはいったようでした。これはいかしばらくすると、急に真っ暗になったわけです。五メートル先もしばらくすると、急に真っ暗になったわけです。五メートル先も



て助かったのでしょう。 メットを被っていたのが幸いし な状態でしたね。消防団のヘル けられずに何も分からないよう 打っているものですから目を開 ん宅まで行ったのですが、頭を か起き上がって、長井亀三郎さ

連れていってもらったのですが 堤防から工さんの船で本渡まで 三時間もかかりましたよ。海に それから、午後四時頃、 浦の

さあ今日も避難、 したからね。 私と家内は、四十日間入院しましたが、町に残っている人たちは 材木がいっぱいで、竿でそれらを押し分けて通るという状態で 今日も避難と、たいへんご苦労をされた上に私た

ちに救援物資とか、いろんな世話をしてもらい、ほんとうに感謝し

おかあさんは、どこで発見されたのですか。

手をつないで出たそうですが、そのまま海岸まで押し流されてしま 協倉庫の間で発見されたそうです。おふくろは当初、家内と二人で ったようです。鉄砲水は、ほんの一瞬で、恐ろしさも何もないです おふくろは、その日の夕方県道の下、今の松本工務店と農

ね



大谷 私と長井亀三郎さんは

ましたよ。 あなたの家が流れるのを目撃し

間に水が家より高くなりましたよ。私たちは、真下にいたものです さんは部落に帰し、私は消防団に連絡するために浦農協まで走りま ていて、これはいかん、被災者もだいぶ出てるようだと思い、長井 水が引いてから帰ってみると、端迫さんの奥さんが道路まで流され からこれは危ないと、二人でまた房崎のほうに逃げました。そして はおかしいなと思っているうちに、屋根下から吹き始め、またたく うに私たちは町長さんたちと役 場に帰ろうとしたのですが、棚 出してきよっとですたい。これ 家を見ると、水が軒下から吹き ので、長井さんと二人で引き返 底川を渡ることができなかった しました。その時、長尾さんの 先ほどの谷口さんのお話のよ

水魔が去って

した。

かつかめなかったように思いますが。 今まで経験したことのない大災害で、被害の状況もなかな

山 下 そうですね。電話が全く使えず、連絡や被害調査はただ徒

九万円です 月二十日、正午現在でしたね。被害総額は、七十二億九千四百八十 のを実際に算定できなかったわけですが、最終的にまとめたのが七 す。私たちもこういう被害を受けたのは初めてで、被害額というも した。被害の確定報告を出すまでには四回ほど調査をしたと思いま 歩によるだけで、とにかく被害状況を集めるのに非常な苦労をしま

事だったでしょうね。 坂本 犠牲者の確認とか、負傷者の救護というのもたいへんな仕

がり始め、 を主体にして救護にあたりました。六日の十一時半頃から死体があ に見つかったようですね。 藤川 宮田地区については、出張所が待機所で消防団、 確認・運搬をしましたが、坂本良平さんの奥さんが最初 役場職員



吉鶴さんでしたか。 ア無線の方と連絡をされたのが き裂かれましたので、アマチュ

福田

通信線もズタズタに引

状に私も気持ちが転倒していて **こに、郵便局長さんから郵便局** これは徒歩で連絡に走らにゃい かんばいと考えていました。そ そうです。あまりの惨

> れたということです。 す。そこから熊本県庁に連絡してもらい、惨状が県下、全国に知ら 話したわけですが、確か受信したのが鹿児島無線局だったと思いま した。早速郵便局に走り、とにかく聞きとれないような小さな声で に災害無線があるから、それを使ったらどうかという伝令がありま

だったと思いますが。 福田 消防団の招集とか、 活動に山並さんは団長としてたいへん

れから災対本部づくりに役場に出向いたところ、あちこちからいろ 番安全なのは倉中だと直感して、学校に保護をお願いしました。そ の消防団に出動命令を出しました。 んな情報がはいってくるんですね。それで早速、 てきた生徒をどうしようかという連絡が自宅にあった訳ですが、 山並 朝八時に、倉中の今福校長からたいへんな雨なので登校し 本部をつくり全町

れたと想像するわけです。消防団からもだいぶ犠牲者が出ておりま 者というような順序でニュースがはいり、その時にはすでに消防団 ないことだと思っています。 長尾正義さんをはじめ、七人の方が重軽傷を負われて非常に申し訳 す…………。死亡された宮田第三分団の坂本豊明さん、ご出席の 十一時頃になって、家屋の倒壊、堤防の欠壊、 一般の方たちも屋外に出て災害を未然に防止しようと努力をさ 河川の氾濫、

ね 福田 情報が逐次はいりまして、遺体捜索も始められたわけです



古鶴 捜索関係は、消防団、役場職員、自衛隊があたりました。私のほうは、むしろ今夜食た。私のほうは、むしろ今夜食がってくる遺体が裸であったり、がってくる遺体が裸であったり、がってくる遺体が裸であったり、たいという気持ちでいっぱいでしたね。

なりますが、災害救助にあたるそしてこれは事務的なことに

を言ったんですが。

死者数が十四、五名を数えたのが、おそらぐ午後の一時半頃だったましたが、死者という情報がはいってくるのは始めてですよ。その山並 本部では、谷口彰利さんたちが情報収集にあたっておられ

岳町に着いたのは夜十一時でしたね。をして、消防団員は全員遺体の捜索にあたりましたが、自衛隊が倉と思います。その頃、山畑町長が帰庁されて、即自衛隊派遣の要請

てやれずに…………ほんとうに申し訳ないと思っております……。百六十三戸という被害でしたが、家の下敷になって救出された方も当壊六十戸、一部破損百十六戸、床上浸水百二十八戸、床下浸水九年壊六十戸、一部破損百十六戸、床上浸水百二十八戸、床下浸水九的には、二十九名の方が亡くなられましたが、重傷三十人、軽傷が的には、二十九名の方が亡くなられましたが、重傷三十人、軽傷がかなりあります。 泉屋の被害としては、全壊流失七十四戸、地索はなかなか困難で、各河川から流された遺体はほとんど海上捜索はなかなか困難で、各河川から流された遺体はほとんど海上

福田
対策本部の活動状況を山下さんのほうから。

調査、河川、農地という順序でした。間は遺体捜索を重点的にやりました。全遺体が確認されると、家屋でいただいた自衛隊百二十人ほど、県警、消防団、職員は四、五日山下「先ず、遺体の捜索が先決だということで、六日の晩におい

福田 水魔が去って、皆さんあの惨状を目の当りにされましたが。

つからずに六日目に漸く見つかったということで、十日ぐらいは災さんと奥さんが犠牲になられましたが、奥さんの遺体がなかなか見いやら分からなかったですね。私の部落の高田善三郎さんのおばあ平。あのような未曽有の大災害で、一週間ぐらいは何をやってよ

害の見積りやらは問題外でしたね。



兄が連れて帰っておりましたの 保育園児は役場の連絡で全員父 ちが心配だからですね。幸いに いということで保育園や児童ホ ちと水の浸入を防ぐ努力をして で児童ホームに行きました。行 いたのですが、どうにもならな ームに行ってみました。子供た 私は最初、 部落の人た

たですね。 所を変えようという瞬間、保母さんたちが子供を背負ったまま、小 ました。その時に、栖本から来ていた人(渡辺さん)が亡くなられ んで、勤めていた私の娘とか滞口さんの奥さんたちを助けて下さい 松医院の所まで流されてしまいました。幸い、消防団の方が飛び込 溝口さん方に避難しましたが、そこも危ないということでどこか場 とか避難する所はないか、と園長と話したわけです。それで職員は ってみると、玄関の所は半分まで水がきており、これは危なか、ど

ら、その世話で精いっぱいでした。 約二か月間は、宮田小学校を避難所としてお借りしていましたか

生きるために………

食糧、 愛の救援物資、 応援

福田 宮田地区あたりでは、 飲料水などの確保に心配されたよう

ですが。

の古江から徒歩で、握り飯とパン・水を持ってきてもらったことで 嬉しかったのは六日の夜十二時半頃、公明党の本渡支部の方が栖本 藤川 そうです。水と食糧が一番問題だったですね。とにかく、

山並 瀬野英二郎さんでしょう。

野菜・漬物・握り飯・水を持ってきてもらったように記憶していま す。宮田はほとんど水道に頼っていますので、それがズタズタにな ると全く水はないわけですよ。それと、吉鶴さんのお話のように、 全然飯を炊かれない家庭が五十世帯ぐらいあって、そういう方は小 藤川 はい。それから七日の朝、水俣から宮田出身の梅川さんが

川僧 次 氏 藤

学校で炊き出しをしてもらいま たから、これには困りました。 とんど食料類を流されていまし したが、床上浸水以上の家はほ

店から米・かん詰・ソーセージ 夜の飯を何とかしなければと、 って、サイダー類の炭酸飲料水 を何で炊こうかという段階にな 等を買い集めました。さて、米 吉鶴 水勢が落ち着くと、今

沈澱させて、うわ水を取るなどその時は思いつきませんでした。 気がついた時は、バケツ一杯の水しか取れなかったですよ。泥水を ろたえていたんでしょうね。屋根から流れてくる水は使えないかと の炭酸を抜いて使おうと、これらも買い集めましたが、私たちもう

福田 伝染病の防疫にもだいぶ気を遣いましたね。

助けをするという体制でした。 防疫活動は、全部保健所にお願いして役場職員が消毒の手

の気持ちを表わしました。 援の皆さんには感謝しますとかを自分の車に紙で大きく貼って感謝 助に走りながらも、自衛隊の皆さんありがとうございますとか、応 ここで忘れてならないのは町外の方の応援ですね。私は、災害救

義雄氏 たですね。 松本

る、それが何道もですからね。 そしてがんばって下さいと書い 小包の中から手紙が出てきて、 を部落に配っていたわけですが、 てあるんですよ、ありがたかっ 区長でしたので私は、救援物資 援、応援に感激しております。 一万円札がゾロッとはいってい 私も今だにそうした救

> 仄 稲 本渡市、 稲津

さん、副団長が私でしたが、 団の世話をしたわけです。 が役場に勤めていた関係で青年 定だった当時の団長が大谷孝典 援がありました。今日、出席予 倉岳町にはいっていただいた 牛深市の各青協から応 青年団のほうも天青協

私

排上作業などを手伝っていただきました。地域青年団の連帯の重要 さということを感謝とともに感じた次第です。 と思いますが、道具なども全部 のは主に五和町と本渡市だった 自分たちで持ってきてもらって

からで約千百二十四名。土のう、ビニール製のかますが七千五十と 消防団で受けた人数は、各町の消防団、 いうことですね。 並 町外からの応援については、私もメモをしとるわけです。 あるいは役場、市役所など

について非常にお世話になりました。 谷口 応援と言えば、郡市内の建設業の方からは、 重機類の提供

福田 自衛隊、 県警機動隊もたいへんな活躍でしたが。

<u>川</u> 最終的な人員としては、 自衛隊が延べ千五百人、県警が三

てもらいました。 たちらが一段落しますと倒壊家屋の後片付けを重点的にやっだき、それらが一段落しますと倒壊家屋の後片付けを重点的にやっ百人ぐらいだったですね。主に人命救助と遺体捜索に従事していた

に気の毒なことでした。 たかったですね。しかし、自衛隊からは、犠牲者が一人出て、非常のですが、救援物資の中には北海道からというものもあり、ありがこのように、自衛隊などの労力面の援助と物資面の援助があった

ね。 福田 役場職員も町長はじめ一睡もしない日が何日か続きました

山下 一週間ぐらいは、自宅に帰れず、着の身着のままの状態で

たね。ので、私たちも三晩ぐらいは全然寝ていない状態で、くたくたでしり検死が済みますと、火葬場に運搬するといったようなことでしたり検死が済みますと、火葬場に運搬するといったようなことでした藤川(宮田地区の職員は、全部出張所に詰めており、遺体があが

なか死体を乗せることを喜ばれないんですね。それで、御所浦町の長として船の世話をしましたが、漁船はたくさんいますけれどなかに行くにはどうしても船を頼まねばならないということで、私は区松本 遺体運搬については私も記憶がありますよ。本渡の火葬場

いただき、何回かその人に運搬をお願いしました。に途中で会って、事情を話したところ、それならと快く引き受けて貸切船を頼もうと思い、御所浦へ向っていましたが、嵐口の貸切船

いよいよ復興へ

災害復旧もどこから手をつけたらよいやら分からない状態でしたが、福田「先ほどの平さんのお話のように、当時は全町民愕然として

平全くそのとおりですが、いつまでも安閑とはしておられませい。先ず、住む家が大事ですから、家屋の全半壊などの調査を各地の。先ず、住む家が大事ですから、家屋の全半壊などの調査を各地での表す、住む家が大事ですが、いつまでも安閑とはしておられませい。

で、当初はほとんど部落の世話で精いっぱいでしたね。 大谷 私は、被害を受けた名桐・投石部落を抱えておりましたの

被害家屋のランク付けをするための調査だったと思います。 席もあったのですが、今、平さんが言われたのは、援護費に対する 言対策復旧本部に切替え、坂本町長になってから災害復興というふ 山並 当日の七月六日に災害対策本部をつくり、七月二十日に災

査設計をやって、その後建設課のほうで復旧の実施設計をやったよ七月二十日以降は、いよいよ復旧にかかるわけですが、最初は踏



すね。今の土石をそのまま埋め 建設大臣で、農林大臣は流れた て田んぼを復旧せよというのが 上石を田んぼに埋没させていて

海岸の埋立てと合わせて復旧をしなさいという意見でした。 その上石を全部海岸に出して は、よい作物ができないから、

てきます。激甚災害の指定を受けて、設計の段階にはいると谷口さ んとうに心の臓につまったような陳情をされたことが記憶に蘇えっ

んが詳しいでしょう。

その時、

この災害をどうやって復旧するか、当時の山畑町長がほ

県の県庁、 町の災害復旧の設計者として協力をお願いしました。 員応援願って設計にあたったわけです。県内の設計技術者の方も五 谷口 人命救助が終りまして設計にはいりますと、遠い所は群馬 あるいは大分県、また県庁の職員で設計のできる人は全

長の吉永さんたちが協議した結果、下に人家がある河川については が問題になりましたが、前土木事務所長の故田中さん、現在山鹿の 土木事務所長の斉藤さん、現耕地課長の原田さん、前の第二耕地課 さて、設計をする前に農林省所管にするか、建設省所管にするか

が、違った意見が出てきたんで の方法について話されたのです 足立農林大臣が来られて、復旧 うです。そんな中で、七月九日 には木村建設大臣、十三日には

夫氏

当初は、どうなってもよいか

す。

用水路ということになったので って下に人家がない場合は農業 土木河川とし、農道や農地があ

幹 らとにかく安全に造ってくれと 通常なら議員さんや部落の人た いうことで設計を急いだわけで、

ちとも話し合うのが当然ですが

一日も早く復旧を、ということ

てから法律ができたような状態で、県職員も法をよく知らない、 あとでは、非常に小言をいただきましたよ(笑)。まあ、災害が起き らいして、 たちもよく分からないで、 ように最善を尽しました。 各自落ち着かれるとやはり人間の欲が出てきますから、 一日でも一時間でも早く元どおりになる になりました。それで、二年ぐ

律が分からんというか、やかましいというか、この問題ですね。 復旧が五十メートル云々というようなやかましい法律のため、今だ も谷口さんたちにやかましく言って迷惑をかけたほうですが(笑)、 に不十分なところが残っていますよ。 吉田 今の谷口さんのお話のように災害復旧で心残りなのは、

に捨てるかで相当議論もありました。海に捨てると浦の中心が土手 全般的には、 河川の排上を海に捨てるか、今の浦の新町の所

私

わけです。もあるからということで、あそこを埋立てて今の新町部落ができたの方に片寄ってしまうので、農地は潰れても学校はあるし、中心で

れてくれるなら、これはできるという自信がつきましたよ。してやると言われたのが一番安心しましたね。国がそれだけ力を入建設大臣を案内して回った時、大臣が三年のうちには災害を復旧

が二筒所ありますね。 福田 平さんから新町の話が出ましたが、倉岳町では集団移転地

地域の関係から浦地区の集団移転地になりました。
って見る影もない荒地になったわけです。そこでその場所が学校やに、新町の所は区画整理をした一等田でしたが、全部荒廃してしまにはいっていたようです。浦地区では、今、平さんが言われたよう山下。本町では、集団移転と康地の建設移転事業が特別立法の中山下。本町では、集団移転と康地の建設移転事業が特別立法の中

すね。

ています。
たが、その他にも建設移転事業として安全な所に移り住んでもらったが、その他にも建設移転事業として安全な所に移り住んでもらっ方円ぐらいかかって、浦が四十六戸、宮田が十六戸ほど移転しましたが、その他にも建設移転事業として安全な所に移り住んでもらったが、その他にも建設を転りませた。

うに当時の新聞には書かれていますね。福田のあのような惨状でしたので、離村希望者もかなりあったよ

山下 実際には離農希望者は一人か二人ぐらいではなかったんで

かということで全町民頭がいっぱいでしたよ。すか。離村というより、この荒廃した我が町をどうやって復興する

早く工場誘致を……

福田 町の復興対策として、新町横の埋立地を工場用地として整

備していますが。

場誘致の敷地に決定したのですが、今もって課題として残っていま致場にしようということが当時盛んに言われておりましたので、工致 - さっき申しましたように、一部を集団移転地、一部を工場誘

あらゆる機会に申し上げているわけです。 坂本 これは、地権者の方からも要望等が出ておりますし、私も

定的なことは申し上げられないわけです。
ただ、現在のような低成長時代では、いつ、どうなるかという断だきながら、是非実現できるよう継続的な働きかけをしております。こういう基本的な姿勢で議員の皆様にもたいへんなお力添えをいたい限りは、所謂水害の復興とは言えないのではなかろうかと、まあい限りは、所謂水害の復興とは言えないのではなかろうかと、まあい別計画のように、あそこに男子雇用型的な工場の誘致ができな

まりましたので、最後に何かどざいましたら。福田のまだまだ貴重なお話を拝聴したいのですが、時間も押し詰

吉 田 留 氏

これからの防災は?

張りにしたということです。何 年かすれば水は必ず下を通りト ろうと。というのは、川を三方 雨が降れば下から吹き上げて、 ンネルができる、そこに大きな た今度のような災害が起こるだ は何十年か何百年か先には、 おっしゃっていましたよ。倉岳 古田 熊大の地質学の先生が ま

再び大災害をひき起こすということです。予算があれば、今のうち に川の所々に穴を開けたらどうでしょうかね。



本

たらどうですか。 回ぐらいは防災訓練をやってみ 消防あたりが主になって年に一 を町民に徹底させるとともに、 上がっているそうですが、それ 松本 町には防災計画ができ

安全な場所にいたので、子供の 校あるいは保育園の子供たちが の激しかった時間帯に小・中学 坂本 今度の災害は、一番雨

> 要でしょう。もう一つは、 れば予想もできないような大被害を受けたろうと思います。その思 被害がなかったというべきで、これが夜間とか退校時に起こってい 有放のように切断、混線という事態は避けられます。 の同意をいただきまして、防災無線を設置することにしましたので、 いをすれば、避難や誘導などの災害対策を徹底させておくことが必 気象状態の周知徹底ですが、 これは議会

と思いますので、今一度各河川の砂防を考えていただきたいですね。 が何箇所かあるわけです。災害を未然に人力で防ぐには砂防である 在、各河川に砂防ができていますが、これで大丈夫かなという砂防 る大豪雨があった場合は、再度災害が予想されるわけですよね。現 岳の地質・地形からみて、 万全の体制を敷くということですが、吉田さんが言われたように倉 山並 防災上の通信や啓蒙については、今の町長のお話のように 何百年か先に今度のような百ミリに達す

るいは防災会議でじっくり研究する必要があるでしょう。 力には非常に感謝しておりますが、そのことについては担当課、 最後に、町外の皆様から大きな救助・援助を物心ともに与えてい おっしゃるとおりです。治山・治水に対しての県・国の努

ただいたで厚意に対して町民一同に変わりまして、衷心よりお礼を 申し上げます。

福田 どうも皆さん長時間、 ありがとうございました。

六水害の 牲者名 簿

下段の目付けは検死の目です。 敬称略、年齢は当時のものです。

宮

田

地

区

浦 地 \boxtimes

松 坂 長 迫 尾 Ш 保 Ξ FH 勝三郎 ∃ ワ 3 ツ ŋ 敏 # ナ 冮 ギ (三二歳) (五四歳 (七〇歳) (八二歳) (六九歳) (六五歳) (七〇歳) (八六歲) (三二歳) (六〇歳) (六一歳) 明三〇・一一・一四生 明一九·三·一生 昭二五・五・二四生 明四三・一二・一八生 明三五・四・一生 明四四・一〇・二四生 明三・六・二一生 昭一六・三・二六生 明三六・六・二六生 明三九・一一・二〇生 明三四・八・二三生 大七・七・一生 七·六 七·八 七七七 上: 上・一〇 <u>し</u>・し

棚 Ш 底 ク 地 区

南 ノ (八一歳) 明二三・一・一〇生七・七(浦にて)

Ш \pm 椒 坂 坂 金 金 坂 坂 坂 坂 本 子スミ子 本 子 本タマ 水 中 加代子 (三五歲) 丰 八重子(三六歲 ル 4 ッ ク ッ エ(五五歳 ı 義 (六六歳) 明(三八歳 カ エ ル + (四〇歳 (六一歳) (六三歳) (九五歳) (六九歲) (五五歳) (五四歳) (七三歳) (五八歳) (三八歳 (四一歳) 明四四・六・二五生 明三九・一・三一生 昭一・一〇・二五生 明四一・八・六生 明九・九・二生 昭六・一一・二四生 昭一・六・四生 昭八・九・二〇生 明三六・四・二〇生 大七・六・一三生 明三二・二・一〇生 昭六・二・一八生 大六・二・八生 昭八・二・二五生 大六・六・三〇生 大二・一一・一五生 七・八 七・八 七・六 七·九 七・七

災 害 調

	被害額	略符号		X			分		被害額	略 符号		X		分		被害額
千円	J	74	公市	· 共		と被 村	害数	団体	1	100			計		千円	13,060
"	50	75		米	又	は	麦	千円	97,260	101		商	建物	設備	"	23,050
"	760	76]	そ	さ	ķγ	類	11	2,510	102	商	業	商	88	"	33,500
"	810	77	農	果			樹	"	75,000	103		I	建物。	设 備	"	14,100
"	1,235,000	78		ķ١			草	"	520	104	I	業	原材料	料等	"	9,600
"	15,000	79	産	た	(3	ť	۲	"	15,360	105		鉱	建物	没備	"	
"		80		雑	ح	•	<	"		106	被	業	生 産	物	"	
"		81	被	葬	Ę	(1	歯)	"	1,640	107		船 (漁船を除	舶 く)	"	
"	1,505,600	82		その) 他。	の作	目	"		108	害	観	光サービ	ス業	"	6,600
"	2,755,600	83	害	農業	を経り	営施	設	"		109		そ	の	他	"	24,700
"	237,100	84		そ	0,)	他	"	760	110			計		"	111,550
"	45,200	85			it	-		"	193,050	111	そ 家	の 屋の	他の被倒壊を	· 害 の他	"	534,700
"	2,756,000	86	畜	家			畓	"	31,520	112	被			額	"	7,294,890
"	450,000	87	産	畜産	経	営施	設	"	10,200	112	12X	Е	1. 4 <i>D</i> 2	നു	,,	7,294,090
"		88	被害	そ	<i>0</i>)		他	"		113	災水	書対 部設	Ą.			
"	1,000	89	Cit		#			"	41,720	110	市	叮村:	名			1 団体
"		90		欢. 7	K ,	素	材	"	24,500	114	災生	書救」 適	加 El			
"	90,000	91	林産	特殊	林産	物薪	炭	"		114	市	叮村:	名。	岳	UJ	1団体
"	3,579,300	92	と被し	林業	者個	人施	設	"		115	消	坊職 (員出動延。	人員数		- 人
"	750	93	書	そ	の		他	"		116	消	坊団!	員出動延.	人員数		1,900人
"	850	94			at			"	24,500		災	書の	重類,概	兄	•	
"		95		漁			船	"	1,500					80人		
"	3,000	96	水	狐			具	"			i	自衛	浆 1,4	60人		
"	36,000	97	産 被 -	蓰	殖	施	設	"	11,000							į
"	40,600	98	客	非!	に 同	施	設	"								
"	6,376,310	99		水産	物子	その	他	"	560							

部 門 別

県事市	務所	又は		倉		岳	(II)	略 符号		X			分		被害	略 符号		区	分
								22		田	浙	失均	里没	ka	124	48	公	itr led	校
報台	占 番	导		第		4	椒	23		CE	汩	Ē	水	"	126	49	立文	小中等	牟 校
								24		畑	浙	失均	里没	"	32	50	公立文教施設	その低文教が	也の設
ł	吉 耆	名		Ш	下	朥	2	25		Mii	冠	Ē	水	"	10	51	収	情	
略 符号		×			分		被害	26		文	教	施	設	簡所	3	52		農地,農 施	業用 設
1	人	死			台	人	29	27		病			院	"	_	53	農林	林業用。	施設
2	八的	徝	方	不	明	"	0	28	そ	道			路	"	98	54	水産品	漁港加	色 設
3	被害	負傷者	П	ĵ	傷	"	30	29	, ,	橋			梨	"	35	55	施設(共同利用	施設
4	T.F	120	帕	Ě	傷	"	57	30		河			111	"	115	56	(公共)	そ の 林 地 崩	他 手 壊
5						棟	74	31		港			淌	"	l	57)	â	
6		全			壞	世帯	74	32		漁			港	"		58		道	路
7						人	303	33	の	砂			防	"	18	59		楯	梁
8	住					棟	60	34	ره	水			道	"	1	60	公	河	Ш
9	1-1-	半			壞	世帯	60	35		清	掃	施	設	"		61	共	砂	防
10						人	243	36		推	<	g"	れ	"	65	62	土木	堤防(海	岸)
11	家					椒	116	37		ıΠ	<	वृं"	れ	"	285	63	施	港	湾
12			部	破	損	世帯	116	38	/111	鉄	道	不	M	"		64	設	漁	港
13	被					人	464	39	他	船	舶	被	害	隻	15	65		そ の (県道その	他 D他)
14						棟	128	40		∭	信	回	線	簡所		66		å†.	
15	entra.	床	上	浸	水	世帯	128	41		停			Œ	"	倉岳町	67		医療施	1 設
16	書					人	527	42								68	その	公衆衛生	施設
17						棟	963	43								69	他の	文 教 施 (国立・和	i 設 (広)
18		床	下	渂	水	世帯	963	44		*************						70	公共	庁舎,公	
19						人	3,852	45								71	施設	そ の (児童ホー	他 ム外)
20	非	公	共	建	物	槺	3	46	櫂	災	世	带	数	世帯	1,341	72		計	
21	住家	そ	0	ס	他	"	267	47	罹	災	ī	F.	数	人	5,389	73	/	\	ŝ†

昭和四十七年七月六日から

谷両県議帰町。深夜自衛隊来町。を設置し、十八時、災害救助法発動される。本町出身の蓮田、小家屋流れ出し、九人の死亡が確認される。町では、災害対策本部七月六日 未曽有の大豪雨。鉄砲水吹き出し、町内の人家を襲う。

七月七日(さらに六人の死亡が確認される。沢田県知事来町。

この朝の雨で再び山津波の危険が起き、浦地区の百戸に避難命令町では、断水が続き、電話も駐在所の警電一本が唯一の連絡線。

が出される。

過労のため心不全で死亡。 年前七時四十五分、自衛隊の常村義博三曹(二四、八代郡鏡町)

プターで来町。 七月九日 さらに、三人死亡。木村建設大臣、知事とともにヘリコ

七月十日 遺体発見、一人。救援物資相次ぐ。

重機百二十四台、労務者二百五十人を投入して献身的に協力、と天草建設業協会(小野川侑会長)は、普通の工事をストップし、牛深市消防団、西村武典団長以下百人、復旧作業奉仕に来町。宮田地区で合同通夜行われる(十五柱)。

七月十二日 宮田地区の合同葬行われる。

の日まで上天草の道路は七十%復旧された。

長を申請する(十九日まで)。

民立農林大臣、園田直衆議院議員来町。この日、災害救助法の延農協で初の全町的対策会議を開く。

始する。衆議員一行、三十二名来町。また、参議員の寺本、高田七月十四日(町議会災害対策特別委員会、本日より地区内巡視を開

細川各氏も来町。

八人、応援のため来町。
一八人、応援のため来町。
一八人、応援のため来町。

七月十七日 「倉岳町・姫戸町・竜ケ岳町・松島町・栖本町の被災五

町、竜ケ岳町で合同対策会議を開く。

了する。 新和町消防団七十名、応援のため来町。自衛隊施設部隊業務を完

市医師会は、一応引きあげる。
関が機能を回復、延べ五百人近くの医療人を提供してきた天草郡天草町消防団七十名、応援のため来町。上天草被災地の全医療機七月十八日 入院中の一人死亡。犠牲者は二十八人となる。

本渡市消防団、六十人が応援のため来町。七月十九日 災害対策本部を復興対策本部に切り替える。

七月二十日 台風七号接近す。

七月二十一日 三角町青年団、救援物資を持参来町。

十六万七千円が送られる。 に二十万円、重傷者に五万円が支給される。倉岳町には、九百九七月二十四日 熊本県、日赤、熊日の災害義援金は、死者・不明者

労音カーニバル、倉中体育館で水害慰労の音楽会(青年団主催)。

行、義援金を持参。七月二十五日、沢田県知事、日赤県支部長、熊日、県事務所長の一

運転。倉中体育館で災害地巡回生活相談(県福祉協議会)。七月二十六日 二十七日まで臨時県議会。産交バス、教良木まで試

千円を知事専決する。 七月三十一日 県下の応急復旧費として、三十九億三千五十三万八

工場用地検分のため、県、会社関係来町。

八月一日 本渡~浦間の定期バス、二十五日ぶりに運行再開。

三十人。県下、干天続きで水不足に悩む。 宮田で難にあった栖本町の渡辺さんを含めると倉岳町の死者は、八月七日 入院中の江崎ユキさん死亡し、犠牲者は二十九人となる。

八月十九日 七月豪雨非常災害対策本部技術調査団来町、八名。

七・六災害

上天草地区出動の記

天草郡市医師会

西

新

の地域保健活動の一端である。草地区災害地に於ける天草郡市医師会とれは、昭和四十七年七月六日、上天

なめ、家屋を押しつぶし、一瞬のうちに百十五人の生命をひと吞みは、ネコの額ほどの、しかし、そこに生計の糧を得る人々の田畑をおいは、突然連続的に山津波(地元民が恐れる山潮)が発生。〃波〃各地に未曽有の被害を与えた。なかでも上天草島の八代海(不知火各地に未曽有の被害を与えた。なかでも上天草島の八代海(不知火土・六(昭和四十七年七月六日)、熊本県下を襲った集中豪雨は七・六(昭和四十七年七月六日)、熊本県下を襲った集中豪雨は

洪水警報を発令」というニュース。これは「あかん!」と直ちに尾テレビのチャンネルを回すと、「熊本気象台は今朝、県下全域に大雨ていて、その前に、うちの患者さんの手当の段取りを考えながら、その日は昼から本渡署に行って、留置人の診療をすることになっ

にした。

ければならない。 に事態をスピーディーに、かつ的確に摑み、出動規模の判断をしな保健担当理事であり、また、救急出動隊長の私は、いざというとき請した。どこで、どんな事態が発生するかわからない。しかし地域上会長に電話。救急第一班と第二班に待機体制の指示をするよう要

らせが入ってからだ。た直後の正午頃、署内の無線に県警本部、県下各署と矢継ぎ早に知た直後の正午頃、署内の無線に県警本部、県下各署と矢継ぎ早に知災害状況の一片がわかったのは、本渡署で留置人の診療を済ませ

その途端、後も崖崩れ、前後塞がれ立ち往生。 道を走っていたら前が崖崩れ、やむを得ずバック。大矢野署……パトカーが姫戸のヤマハボート工場近くに向って県城南地区……洪水、電柱に登って助けを求めている人あり。

いる人あり。 姫戸町……山津波に押し流され、流木に縋って海上を漂流して

死者三人以上という報告だ。 の者三人以上という報告だ。 で発生。これを真上から受けた家々は、濁流と岩石に押し流され、 が発生。これを真上から受けた家々は、濁流と岩石に押し流され、 のど不通。やっと通信できたのが倉岳駐在所に警察電話で連絡するが、発

先生に待機体制の指示をされている。医師会グループの災害救助活両先生に連絡をとっており、また、尾上会長も第二班長、金沢一久路とした。すでに天草郡市医師会では、私が第一班の永芳、早稲田本渡署は、直ちに出動を決め、コースを大門港から浦地区までの海

動は本渡署の出動と同時に始まった。

日間、医師四十四人、看護要員四十七人動員した。項目を重点的に実施することにした。この作業は十七日までの十二般人。⑤死者の検死。◎災害地の患者の治療。⑤防疫対策など、互払達は現地に着いたら、直ちに、⑥重症者の応急処置。◎病院への

二年の生徒とし、この二つの条件を満足する該当者を選んだ。 こ年の生徒とし、この二つの条件を満足する該当者を選んだ。 との看護婦を出動させようかと思案に迷った。しかし、急がねばな との看護婦を出動させようかと思案に迷った。しかし、急がねばな との看護婦を出動させようかと思案に迷った。しかし、急がねばな との看護婦を出動させようかと思案に迷った。しかし、急がねばな との看護婦を出動させようかと思案に迷った。しかし、急がねばな との看護婦を選んだ。

長は、先遣隊を減らし出発した。
員の釣舟、一・六屯)で定員六人。七人以上は危険なのだ。村上隊村上隊長以下先遣隊の待つ大門港へ向う。舟は、樫木丸(元本渡署校取りを整え、雨ガッパ、ヘルメット、長靴といういでたちで、

が、倉岳町宮田地区には四ケ所位大きな被害が発生したのではないている。一方山は………倉岳・竜ケ岳などの山々の肌がむき出してている。一方山は………倉岳・竜ケ岳などの山々の肌がむき出してたろうし、人々が生活していただろうに濁流に押し流されて、大きたろうし、人々が生活していただろうに濁流に押し流されて、大きな被害を受けていることが想像できる。舟の上からの判断ではあるな被害を受けていることが想像できる。舟の上からの判断ではあるな被害を受けていることが想像できる。舟の上からの判断ではあるな被害を受けていることが想像できる。舟の上からの判断ではあると、海は褐色の風と小雨の中を走る舟が栖本町沖合にさしかかると、海は褐色の

私達が上陸したところは、竜ケ岳町大道地区に近い一角。倉岳町私達が上陸したところは、竜ケ岳町大道地区に近い一角。倉岳町を成立っいでくる。

「先生は我が家より災害者の救出だ」といって出ていますとのこと。た生の家から三十メートルぐらいの所に山津波がきていて、県道は、土砂と濁流ですっかり埋まり、十戸ぐらい家屋が崩壊している。た生の家から三十メートルぐらいの所に山津波がきていて、県道は、土砂と濁流ですっかり埋まり、十戸ぐらい家屋が崩壊している。た生の家から三十メートルぐらいの所に山津波がきていて、県道は、土砂と濁流ですっかり埋まり、十戸ぐらい家屋が崩壊している。た生の家から三十メートルぐらいの所に山津波がきていて、県道が土砂と濁流ですっかり埋まり、十戸ぐらい家屋が崩壊している。たせの家が高流ですっかり埋まり、十戸ぐらい家屋が崩壊している。たせの家は、地域の野人が開発した。私達が上陸したと、竜岳町大道地区に近い一角。倉岳町、私達が上陸したところは、竜丘町大道地区に近い一角。倉岳町の学校は、いずれも生徒達を客船「倉岳丸」で帰宅さればいる。

叫び声。 ちに応急処置をした。続いて、主婦が家の下敷になっているというちに応急処置をした。続いて、主婦が家の下敷になっているというに重傷者を乗せた小型トラックがきた。上腕、肋骨ともに骨折。直次の行動の対策について、村上隊長と打ち合わせをする。その間

「死体も一人ある!」の呼びに

「死体は後から、先ず生存者の救出が先務」と応答。

れで拭き、次にマーキュロをぶっかけ輸送に決めた。からガーゼを取り出し、これに思い切ってピロゾンをぶっかけ、これた家に運び応急処置。水がない。あるのは濁った水だけ。救急箱折してなかったが、右太腿部を約三十センチ裂傷、近くの流出を免小松先生と私は、一緒に下敷の主婦を救出した。幸いなことに骨

た。その重傷者は、骨折。すでに重傷者五人、この五人を先遣隊が「浦地区山手の部落には、蓮田先生が重傷者の救出に向っておられ

かと不吉な予感がする。

乗ってきた船で本渡へ送ることにした。

願いした。というのは、宮田地区に相当の被害があると思われ、こ 電で隣の姫戸町の被害が大きいので、重傷者を本渡に送る処置が精 のため尾上会長が待っている天草郡市医師会館に至急宮田地区へ救 確信できない。もし、無傷であったにしても本渡署に入っている無 のある竜ヶ岳町の状況が警電も不通のため、皆目つかめず健在だと 一杯だった。この五人の輸送には小松先生に同行してもらうようお 現地から一番近い距離にある病院は上天草病院。しかし、同病院

助隊を出すよう連絡してもらうため…………。

を急いで宮田地区へ送った。 この連絡を受けた尾上会長は、午後五時に浦田副会長、 永芳先生

らない。言葉で表現できないことを、言葉から想像するというのは 所詮無理な話だと思う。 災害の惨状は、それを実際目のあたりにして見た人でないとわか

私には、ひと息する間もなく次の仕事が待っている。

録 倉岳水害

悲

宮田塩迎寺

谷も うず巻いてほえる 土砂と大石と濁流が 河も 田畑も 町も

母と妹は 父はその下敷きになった 家は倒壊して流れた となりの屋根に避難した アッという間もなく 濁流にのまれた

多分 サヨナラであった 母と わたしは 目をつぶった どうすることもできなかった 妹は 手を振った

わたしは それを墓地より見たが

Щ 嶦 龍 瑞

精いっぱいであった

わたしは逃げるのが

上の墓地に逃げた 腰まで水につかって

水速一秒 七〇メートル 集中豪雨六〇〇ミリ

泣いても涙は「出なかった気も狂わんばかりに泣いた

父母と妹を 全財産を失った 一瞬の出来事であった 二、三秒で水中に沈んだらしい こ

七月六日午前十一時四分ああ。 うらみは深し

寺岡モリエ

現わしております。

現わしております。

の日の水の偉大なる強さ、不思議な力を物語る一例を申し上げます
の中に、あのような悲惨な想像を絶する地獄図が、しかも一瞬のうちに、中間で、あの時の状況を如実にいい表わしてあります。
の日の水の偉大なる強さ、不思議な力を物語る一例を申し上げます
の日の水の偉大なる強さ、不思議な力を物語る一例を申し上げます。

るかのように煙を立てて降り出した。町の有線放送は、益ひどくなり、咫尺も分かたず、あたかも濃霧の中につつまれてい止むことなく、息をもつかせぬほど降りつづく。午前十時、雨は益七月六日、朝八時頃より本降りになった。雨は、一分一秒の間も

れの地区の警戒にあたって下さい。」「緊急お知らせします。消防団員は、それぞ「緊急お知らせします。緊急お知らせします。消防団員は、それぞ

問もなく、また

に来て下さい。」 「 保育園の園児のご父兄に申し上げます。 直ちにお子様を引き取り

園横の堤防が決壊しそうだ。児童ホームの上、池田松市さん宅横のつけた。と、間もなく砥石川(幅約五m、全長約三㎞)上流の保育十時三十分、私は妻をつれて下の原田いちさん宅に畳上げにかけと、緊迫したアナウンサーの声で緊急通報がなされる。

は、どす黒い泥水が一面になって、海まで続いている。その水の速る情報が伝えられてくる。松市さん宅付近の人が寺に避難し始めたとの知らせをうけて、私と妻は原田家より急ぎ、寺に引き返す。かり、妻の手を引っぱって、ともすれば押し流されそうになる足もとをさぐるようにして踏み進む。一段高い所にいた松本義雄さんにとをさぐるようにして踏み進む。一段高い所にいた松本義雄さんにとをさぐるようにして踏み進む。一段高い所にいた松本義雄さんにとをさぐるようにして踏み進む。一段高い所にいた松本義雄さんにとをさぐるようにして踏み進む。一段高い所にいた松本義雄さんにとなって流れ出した。その様は、まさに荒れ狂う魔物の進撃とでももしましょうか。身の毛のよだつ恐怖感におそわれた。寺の下の田地しましょうか。身の毛のよだつ恐怖感におそわれた。寺の下の田地によって流れ出した。その様は、まさに荒れ狂う魔物の進撃とでもなって流れ出した。その様は、まさに荒れ狂う魔物の進撃とでもないでするように入が表した。

時計の針は、十一時三十三分を指している。さ、威力、水量に只ならぬものを感じた。轟音は、尚も続いている。

に走り回って連絡につとめている。 雨は、午後○時半頃より少々小降りとなり、消防団員があちこち

通夜である。

見当らない。」 下の梅川末義さん宅も流されて跡かたもない、梅川さん夫婦の姿も「 梅ノ木部落の坂本森由さん宅は、家が消えて何も見えない、その

しばらくして

何軒もの家が流されたという。」 ノ原部落は更に大きな被害が出たらしい。死者も相当出たらしく、「 梅川さんの妻キクエさんは死体となって家の下で見つかった、西

真実とも思われぬ不吉な噂が次々に耳に入る。

念仏に入る。

の遺族が、猛り狂った山潮の興奮と悲しみとが混乱して未だ覚めやつい数時間前に一瞬にして消えた家、両親、妻、子、兄弟等肉親

重傷者も一緒に収容された。言い知れぬ特殊な雰囲気の道場での御らぬ、やり場のない複雑異常な気持ちのまま、とりあえず避難者も

母を亡くした中学生の女の子が父にとりすがってオンオンと慟哭するあり。妻と長男夫婦を一度に亡くして、小学校六年生を頭に三人の孫をかかえた老人がポカーンとして定まらぬ瞳で放心状態のまま合掌している姿あり。家もろとも濁流にのまれ妻は死亡、あやうく助かった重傷の農夫あり。反対に夫は死亡し、九死に一生を得たものの意識は確かであるが、あまりに重傷のために(親戚の者がこの上にショックを受けてはと案じて夫の死をかくしていて)、夫の死を知らぬ主婦あり。牛を助けに行き、牛とともに小屋の下敷になり牛は自分の膝に頭を乗せたまま即死し、四時間後奇跡的に救助された農夫あり。老婆に抱かれたまま煙草乾燥小屋の下敷となり、老婆は死亡、五時間後に、これまた奇跡的に救出された三歳の女の子がとは自分の膝に頭を乗せたまま即死し、四時間後奇跡的に救助された農夫あり。老婆に抱かれたまま煙草乾燥小屋の下敷となり、老がは死亡、五時間後に、これまた奇跡的に救出された三歳の女の子が発に見が、中とともに小屋の下敷となり、老師で放心状態のまれた農夫あり。妻と長男夫婦を思い起こせば、到底私如きの出める。

なった。 「工霊位(不明者を含む)に朝夕二回霊前にお供えすることが日課と参加、その寸暇を利用して寺で炊いた仏飯と水を運んでは、殉難十葬場に送るという日課に入る。妻は、小学校で婦人会の炊き出しに私共親子はその夜より、遺体が発見されるたびに、密葬しては火

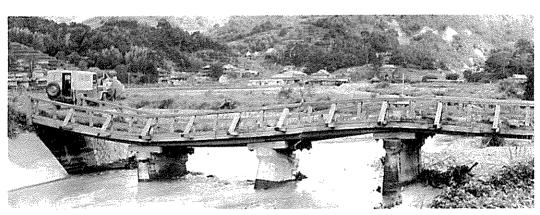
らし、なんともいえぬ響を残して出港していく。その舟の見ゆる限を積み終えた舟が、それぞれの遺族を乗せて出港の合図の汽笛を鳴葬場に送る。舟着場まで引声念仏しながら行道して霊を見送る。棺七月七日、八名の霊位を密葬にし、直ちに貸切船にて本渡市営火

この付近に家があったのだが……。(西原地区)

七月十一日、十五霊位の最後の一人山並ツョさんの遺体が発見さ泣くまじと思えどもこみ上げてくる涙をどうすることもできない。り陸より見送りつつ、お念仏する声もとぎれて曇りがち、僧なれば

れ、行方不明であった方々の全遺体と死亡が確認され、その晩七時れ、行方不明であような大雨になろうとは、殉難者を偲ぶ涙雨であとなってどしゃ降りとなる。昨日まであんなに好天気だったのに後になってどしゃ降りとなる。昨日まであんなに好天気だったのに後になってどしゃ降りとなる。昨日まであんなに好天気だったのに後になってどしゃ降りとなる。昨日まであんなに好天気だったのにも大洪水の当日を思わせるような大雨になろうとは、殉難者を偲ぶ涙雨であった方々の全遺体と死亡が確認され、その晩七時れ、行方不明であった方々の全遺体と死亡が確認され、その晩七時れ、行方不明であった方々の全遺体と死亡が確認され、その晩七時れ、行方不明であった方々の全遺体と死亡が確認され、その晩七時れ、行方不明であった方々の全遺体と死亡が確認され、その晩七時れ、行方不明であった方々の強力を表します。

編集者の本名で一部を割要しております。 (紙面の都名で一部を割要しております。 を収入したものです。 (根面の都名で一部を割要しております。) (根本数区教化団発書第三集、悲録倉岳水害」



ぐにゃりとへし曲った浦小串子橋, この下を2人の犠牲者が流れていった。

〔水害復興の碑〕

除 幕 の 日

福

田 信

行

ま

昭和五十六年度当初予算に水害

ぐことで予算が承認された。 工事の関係業者から寄付金を募り 台座工事に要する労力の奉仕を仰 復興記念碑建立に関し、 水害復旧

姫戸町の碑を調査

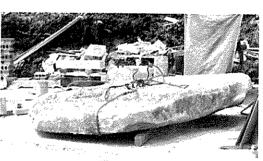
戸の水害復旧記念碑について調査。 四月二十二日 栖本・教良木・姫

寄付金、 ることに変更。 要額は六月定例議会で予算補正す めて町費で建立することとし、 四月二十七日 労力奉仕に頼ることを止 当初計画していた

松島町の碑を調査

五月七日

所は、役場庁舎敷地東隅と決め、 は受けない旨を報告し、建立の場 建設業者からの寄付金、 議会全員協議会に諮り 労力奉仕



倉岳中腹から取り出された名石

峰倉岳の地に名石倉岳の石を使っ

を取る。 五月十一日

その中から、天草一の高

石材業者から見積り

碑名字は公募することとした。

棚底、 石は古野さん所有のもの、台座石 あるものを相談することとし、 選択のため倉岳に向かい、 相談して使用する事とした。 協力により、 五月十四日 浦の小谷澄彦さん所有の石を 横道の村田喜昭さんの山に 池田氏を伴って材料 棚底、 古野春道氏の 碑石は

りも着々と進められる

相談に行き承諾を得。碑名字も公 五月十五日 村田さん宅に碑石の

づく

募

池田政信氏)に工事を委託。

渡市下浦町の池田石材店(店主

て建立に当たるということで、本 のなしとのことで採算を度外視し 屋としての栄誉はこれに過ぐるも て仕事をさせてもらえるのなら石



据えつけられる碑石



県知事揮毫の碑文を掘る (池田石材店にて)

がないため、倉中生徒三人の作を 定会を開いて厳選した結果入選作 五月二十六日 公募した碑名字選

参考として「上天草水害倉岳町復

字数が多いので再検討となった。 材店に行き、寸法を当たってみて 六月一日 興の碑」と決めた。 碑名字について池田石

氏)、収入役、 仰しと決定。 いて検討した結果、「水害復興の 六月二日 町長、 池田石材店に出向 議長(永畑正光

依頼。 き、神名字の揮毫を熊本県知事に 六月四日 稲津収入役、県庁に赴



遺族の思いも新たに

(除幕式にて)

六月十六日

神酒を捧げ、整地し

池田石材店に運搬。

田さんの山より碑石を取り出し、

(ブルドーザー使用) 台石と共に

五月十九日 平和産業を頼んで村

亽 有の石を台座にするため役場へ搬 六月二十六・七日 て基礎コンクリートを打つ。

小谷澄彦氏所

にステンレス製の手摺を回して工 七月五日 六月二十八・九日 碑石を据え込んで外郭 台座工事。

の重量七屯。幅二・五米。全体の り行い、棚底の藤本節子さん、宮 重量約三十二屯。 田の藤川千恵美さんが除幕した。 宮司、森田繁敏氏により神事を取 七月六日 務部防災消防課長他約百三十名。 完成した碑は、高さ六米、碑石 式典参列者 除幕式。棚底諏訪神社 熊本県知事代理総

除幕された「水害復興の碑」

六月八日 碑文を作成し、石材店

に持参。

事完了。除幕式準備も併せて行う。

全国から愛の救援

起	爱 之	河内岩蔵 河内工業会長 十万一	宮本軍次 長崎桂互飯行社長
拿	拉金	円	一万円
		嵐口婦人会 御所浦町 一万円	天草教育振興協議会 一万円
山並忠男 八代市 二十万円	横浦婦人会 御所浦町 二万円	カリタス・ジャパン カトリッ	天草新建KK 本渡市 三万円
天草市町長会長 十万円	小野義高 本渡専門店会 一万	ク教会 三十万円	橋本繁雄 朝日ベレーKK社長
肥後銀行本店 五万円	円	垣田義一 富士市旭化成 五千	十万円
沢田一精 熊本県知事 五万円	樺島良直 宮口KK 一万円	Щ	朝日ベレーKK従業員 三万四
沼田一 熊本県議会議長 二万	木村武雄 建設大臣 七万円	渡辺文吉 阿蘇郡一宮町 一万	千三百円
円	園田直 衆議院議員 十万円	丏	田中勘蔵 大矢野町消防団長
田代由紀男 県議会議員 一万	木村利雄 松橋町 千円	岩田工業及従業員一同 十万円	五千円
円	山本正吉 五和西中学校 五千	中桐政和 中桐真珠 五万円	岡田末雄 熊本市田迎町 三千
桐原千春 脇島義晴 荒木末雄	円	氏家 尼ケ崎市 二千円	円
御所浦町 一万五千円	神社庁天草支部 天草郡市氏子	栗山年生 久保田鉄工KK九州	浜崎監太郎 横浜市倉岳親睦会
吉永産業 本渡市 五万円	総代連合会 一万円	支店 一万円	三万円
吉永産業従業員 五千円	日本機械工業KK福岡営業所	与一ケ浦 牧島婦人会 御所浦	山田慶造 武村工場長 三十万
中村末人 本渡商工会議所会頭	二万円	町二万円	
五千円	桜ゴム 消防ホースKK 三千	職員一同 新和町役場同町立病	坂本幸介 松橋町晃山会長 一
本渡市中央商店街復興組合 三	円	院 一万七千円	万円
千円	湯本一雄 野々村ポンプKK	職員一同 天草町役場 一万五	穂多田正典 日奈久温泉センタ
柿久重則 よどや 三千円	三万円	千円	ー 一万円
北星堂 本渡市 一万円	荒木喜代太 御所浦町長 十万	職員一同 苓北町役場 二万三	旭相互銀行天草支店 五千円
岡陽一 九州産交KK 三十万	円	干円	蓮田志末造 芦北郡田浦町 一
円	一天草遺族連合会 一万円 一	職員一同 五和町役場 一万七	万円

千円

田中友義 神戸市 松浦工務店 五万円

一万円

宮本軍次 長崎相互銀行社長 岳尾三平(浦出身) 二万円 二万円

1

高田種安 玉名市 一万円	万円	高口時男 北海道 自衛隊 一	立石政良 五千円	立石又男 五千円	坂本雅子 横浜市 三千円	斉藤正道 八代市 一万円	羽衣石正文 本渡市 五千円	竹本勝喜 本渡市 三万円	取締役 五万円	渋谷正士 渋谷電気製作所代表	十万円	中村一彦 天草信用金庫理事長	委員団一同 二万円	衆議院災害対策特別委員会派遣	並田医院 十万円	円	天草海真珠KK 牛深市 五万	長会長 五千円	石崎目出男 熊本県町村議会議	一万二千六百円	三役 職員一同 芦北町役場	熊本県清掃協議会 一万円	六千円	職員一同 田ノ浦町役場 一万
熊本市健軍町 三千円	職員一同 熊本県計量検定所	[13]	浜松信之 熊本市池田町 五千	県伊万里市 二万一千円	福原俊一 福原組取締役 佐賀	æ	吉沢庄松 天草郡松島町 一万	山下千里 本渡市 一万円	円	竹原保 旭化成 守山市 五千	畠山一十 鎌倉市 一万円	千円	村川三千子 嘉正 横浜市 五	五和町青年団 二万円	委員長 一万円	永野繁光 新御所浦町職員組合	円	今森孝 旭化成 延岡市 五千	二万三千五百円	嵐口小学校PTA 御所浦町	営業所長 一万円	藤本啓 昭和水道土木KK熊本	豊文社 一万円	有馬槳局 尚学社 三旺社楽器
法人苓山寮。天草学園 一万	職員一同 保護者会 社会福祉	严	浜本忠信 天草郡五和町 二千	小谷久爾夫 県会議員 一万円	千五百円	木津夏子 北九州市八幡区 六	下通町 二万円	丸川さつき 富貴旅館 熊本市	熊本市大江町 一万八千円	従業員一同 十八測量設計KK	万三千九百七十二円	町民一同 天草郡河浦町 十七	円	町民一同 天草郡有明町 十万	万円	桑原元雄 本渡市武内病院 二	田中重雄 熊本市大江 五万円	三万円	有江政市 有江建設 本渡市	四十四円	K 大分県南海郡 六千二百	従業員一同 猪の串中桐真珠K	課 熊本市桜町 千五百円	岩崎勝郎 熊本電気通信部資材
万円	中野嘉平次 菊池郡大津町 一	円	池田照政 兵庫県明石市 二万	市東浜町 一万円	平野康賢 ダスキン天草 本渡	円	熊本市泉ヶ丘校区 一万五千	婦人部一同(代表古閑幸枝)	万円	島本広熊本市泉ケ丘校区	出張所長 一万円	大塚正 門司砕石工業KK三角	砕石工業KK 一万円	船舶一同(代表宮吉丸) 門司	FJ	川上剛靖 大矢野町長 十二万	東京急行電鉄KK 十五万円	吉鶴満 倉敷市 千円	千円	山口マサカ 熊本市出水町 五	円	稲田満作 下津浦中学校 三千	久保田鉄工九州支店 一万円	Щ

津町 二万円	山名繁男 菜阿商事 菊池郡大	i i	福岡県中間市二	新和町 五千円	į	茂 甘木市恵比須町 一万	7-	仁愛幼育園 熊本市薄場町 一		磨田ミツ 本渡市 三千百五	天草郡退職女教師会一同(代表	百円	赤城秋穂 好美 本渡市 千三	深市	řħ	合茶北町		天草郡婦人連絡協議会 八万五	F. F.	森慈秀 熊本市東子飼町 一万	一市	宮崎穂積(東洋コンクリート)		中道小学校 阿蘇郡一宮町 九
小谷和俊 東京都小平市 一万	会千円	社団法人隊友会熊本県支部連合	自衛隊地方連絡部長 千円	連合会 千円	河上軍蔵 熊本県自衛隊父兄会	天草郡社会福祉協議会 一万円	六下円	県消防協会庭本支部長 山庭市	五木村役場 球磨郡 三万円	金本渡市支会長 二万円	本渡市社会福祉協議会県共同募	円	園田清充 農林政務次官 二万	天草病院 二万円	五千円	柴田仁 音楽評論家 東京都	円	好田又喜 宇土郡三角町 五万	五十一円	動車KK 康津市 六千五百	満川幸校(車掌代表) 昭和自	東京都太田区 三万五千円	笈川幸雄 東京実業専門学校	田中達人 熊本市 千円 一
鹤田昭信 近畿五和会事務局	坂口忠 大阪府八尾市 三万円	円	坂本元八 真美子 姫路市 千	H	松岡フミ 本渡市本渡町 二万	小倉区 五万円	ント九州事務局長 北九州市	内田正雄 日本港湾コンサルタ	五千三百円	職員一同 球磨郡五木村役場	千円	連田知則 佐世保市日野町 五	中村四郎太郎 三角町 一万円	百十六円	協議会事務局長 一万五千八	遠山和気雄 熊本県PTA連絡	千二百十五円	池田逸記 寝屋川市春日町 六	田市 一万円	谷川清 久美子 恭子 大和高	松本まさえ 普及所 二千円	之島 一万円	観乗寺仏教婦人会 竜ケ岳町樋	屈
佐光久 KK佐光組 大阪市	円	三和モータース 熊本市 二千	山畑和美 辰己製陶所 二万円	阜県土岐郡 十万円	横山昭三 辰己饗陶所社長 岐	千円	田中美文 摂津市南千里丘 四	天草検察審査協会 一万円		トガネ木工所 八代市 五千四	千円	大友とみの 宮城県加美郡 五	千円	秋月喜文 大分市王子中町 二	高尾兼太 一万円	高田浩運 参議院議員 三万円	円	婦人部 一万八千七百五十五	九州電力労働組合川上分会青年	河内建 滋賀県甲賀郡 二万円	内 七千六百円	侏	\sim	一 大阪府高石市 一万円

近藤トキョ 東京都田無市 一 全電道労働組合熊本県支部 十 天草郡市小中児童生徒職員一同	森崎葬儀社 八代郡鏡町 千円 二万九千二百円 菊池郡泗水町 五千円	千円 ロサンゼルス市天草郡郷友会 泗水東小卒業生一同(S3)	船津婦人会 河浦町宮河内 三 十九円 円	円 熊本市健軍町 二万三千百三 池田主雄 大宮地小学校 二千	平田明生 大阪府茨木市 五千 東洋航空事業KK九州作業所 阿蘇郡役犬小学校 六千円	円 中山要 中山病院 十万円 渡辺文吉校長 職員 児童一同	渡辺宗尚 熊本市健軍町 二千 万七千二百円	門 熊本県消防協会天草支部長 一 中北小PTA 大矢野町	橋本馥 八代仏教婦人会 六千 円 学習社 本渡市 二千円	五円 田上光春 東大阪市新庄 一万 広島県相互扶助会 二千七百円	水俣市長 十四万九千五百五十 福祉協議会会長 五万円 万円	都島区 三万円 在田萬次郎 兵庫県西脇市社会 斉藤正道 八代市昆舎九町	高田益己 大阪倉岳会 大阪市 坂本亀雄 熊本市春日 一万円 向学社 本渡市 千円	十円 人部代表 一万円 教材社 本渡市 千円	場職員組合 二万二千七百七 一 渡部睦子 佐世保市十郎新町婦 日観天草支部 本渡市 千円	中村信弘(代表) 多良木町役 二百円 二千円	吉田勝 大阪市 二千円 緒方キヌエ 福岡市松島 三千 早田よしえ 菊池郡泗水小学校	(各小中学校へ) 八万円 八円 四千円	熊本県地域婦人会連絡協議会 城下住男 熊本市? 五百四十 池尾由美 御所浦町与一ケ浦	大昌建設 一万円 五万円 松岡栄一 鬼池小学校 二千円	本渡警察署長 二千円 岩崎与八郎 岩崎産業KK社長 十四円	円 門 郡泗水小学校 一万三千百九	坂口俊行 愛知県刈谷市 一万 遺迎寺 倉岳町宮田 一万八千 児童会 職員 父兄一同 菊池	
負一同 一 中央女子高校 熊本市 五千円	万一千六百円	23) 西原中学校生徒会 阿蘇郡	一千七百円	二千 十恩小学校職員 児童会 二万	十円 / 熊本女子高校 熊本市 五千円	<u> </u>	田浦中学校 芦北郡 一万二千	津南中学校 芦北郡 五千円	円	七百円 日本観光クラブ 本渡市 三千	円	町 一 吉田ムツエ 栖本小学校 三千	本渡市 五千円	今福征勝校長 下浦第一小学校	十円 百九十円	袋小学校 水俣市 二万一千五	小学校 一 五千三百円	佐藤秀子 石坂小学校 水俣市	ケ浦 葛渡小学校 水俣市 八千円	一千円 万円	熊本県地域婦人連絡協議会	十百九 二十二万六千円	菊池	二十六万七千七百四十一円

三浦幸美 本渡市 三百円千円

千円 熊本第一工業高校 熊本市 五小松野信子 大矢野町 五百円

職員一同 倉岳中学校 六万二四千九百二十八円 白岳町 一万

千円

救援物資

天草郡市校長会 酒 然為來居 竹輪 水俣市 米外 人海水産 竹輪 水俣市 米外

出田実業 熊本市 ラーメン外大昌建設 かん詰

田中時計店 本渡市 タオル八代土木 八代市 一輪車山田履物店 本渡市 運動靴外西日本空輸 タオル

水俁市

衣類

自治労県本部

田浦町

ジャガイモ外

熊本市 モヤシ

寺尾久雄

日奈久

衣類外

タバコ外 | タバコ外 | タバコ外 | 東京 | 東京 | 東菜類外 | 東菜類外 | 東菜類外 | カトラ | カ

大矢崎こども会 本渡市 大矢崎こども会 本渡市 米

粒友パン 本渡市 ポップコー 竜北村長 八代郡 衣類松本栄子 築柴野市 衣類大草橋本屋 本渡市 モビセンス 東京橋本屋 本渡市 を買り

は ませてするは これのは これ

立正成会熊本県支部 衣類外外保市職労 衣類外 水俣市職労 衣類外

中米屋本店 宇土市 衣料長崎相互銀行 タオル県農協連 野菜

大阪水上灘泉宮 大阪守三 大阪水上灘泉宮 久留米市 衣料 湯浅つね 久留米市 衣料 字土市一住民 衣類

衣類 大阪水上隣保館 大阪府三島郡

志柿秋利 熊本市 ジャガイモ酒井病院 本渡市 ラーメン外

鮮魚御所浦漁業協同組合流し綱一同

タマネギ外 興寺実業KK社長 宇部市

立北町役場 タマネギ外一会金婦人会 本渡市 衣類外日奈久観光協会 ユカタ外一大草郡農協連 米外大草郡農協連 米外

蔵 タオルケット 関部敬

天草リハビリ 天草町

雑巾

めぐみ保育園父兄一同 本渡市大黒屋 本渡市 つくだ煮外

オレンジドリンク外 本渡市内より

くつ詰合せ

高田老人会一同 八代市 衣料渡辺太郎 熊本市 衣料牛深町漁協一同 タオル

本渡市青年団体連絡会議引坂公民館婦人部本渡文化服装学院本渡文化服装学院

草野嘉次郎 八代市 衣類外山野圭子 ともに衣料外県事務所総務課 山田スズシ五和町

交通安全協会五和支部

三角中学校生徒会 雑巾外

衣類 遠山しげみ 佐敷中学三年 天草地区高校 衣類

遠山二朝 同一年 衣類

34

田中源左衛門商店鬼池老人クラブ

川鉄計量器工場熊本県人会 宮地岳 新和農協 藤田松彦 山下和子 逗子市 加藤はるみ 本渡松屋旅館 荒尾第一紡績 有明町 雲仙新湯 芝田候子 若杉ハル 和田正鉄 長崎県 衣類 三原八千代 北九州市 佐々修子 高砂市 島原市長 倉岳高校住宅より 天草郡市農協 野菜外 志岐土地改良事務所 日本プレハブ工業 北九州市八幡区第二婦人会 日本生命天草支部 ラーメン外 右田末窩 水上村 衣類 東活竜 佐賀県 衣類 山口兵太郎 福井県 衣類 衣類 衣類 河内文太 本渡市 衣類 メロン 八代市 のり 漬物外 衣類 衣煩 衣類 酒 衣類 ビール 二江漁協婦人部 吉田 久留米市 目崎嘉代子 西宮市 平田和広 伊丹市 矢護川婦人会 菊池郡 鬼池農協支所 本渡中学校生徒会 鬼池小学校 本渡ロータリクラブ 神戸教会学校 静岡県 松本裕子 神戸市 中道小学校児童会 佐藤道子 下関市 谷川清 大和高田市 下村婦人会 球磨郡 マツダオート南熊本 田坂ハッピ 本渡市 本渡市農協婦人部 新和町農協婦人部 関西天草郷友会 金光教天草支部 本渡市古川婦人会 春日丘自治会 伊丹市 川鉄社宅自治会一同 森本藤一 靠屋市 野菜 野菜 阿蘇郡 野菜 衣類 **與光信義** 中富美意子 帯山幼稚園一同 桑原武 電華子 すみれ文化服装学院 天神平 有明町 西村青果 熊本市 タマネギ外 野入稔 飯塚市 中野泰子 横須賀市 椛木末弘 下益城郡 城西七町内婦人会 宮地岳小学校 中元興市 五和町 佐伊津小学校 桐寄氏春 本渡市 岩崎 八代市 柴山喜久子 宮内政利 荒尾市 教職組天草支部 県教職員組合 本田宋義 八代郡 平戸市 衣類 食糧品外 福岡県 埼玉県北葛飾郡 北海道 熊本市 猪一郎 熊本市 衣類 熊本市 八代市 孝幸 菊池郡児童会職員父兄一同 三菱電気緑ケ丘自治会 西山喜恵 クラレ大阪尼崎工場 副島和子 熊本市 沢本洋 東京大田区 十条八代工業仕上課有志 古塚美江子 東京都 鈴木静子 山本智子 築柴郡 黒木政治 宮崎市 三角背年団 上田さかえ 黑髮小学校六年五組 麻生田旭ケ丘子供会 株式会社給食弘済会 天草税務所長 香田清次 熊本市 砂田明 高橋孝次 是沢満恵 御戸嗣義 学用品 菊池郡泗水小学校 衣類 衣類 しいたけ 干棄市 福岡市 堺市 球磨郡 野菜 熊本市

6 熊本市

熊本市

水俣市

フトン

衣類

伊丹市

ビール

田中つる 田中時計店 鶴田玉文堂 水俣市立東小学校 佐藤ミヤ子 日向市 上原奈々子 京都市 学校給食会 熊本市 風間文具店 大浦小学校五年生一同 大石嘉子 小原常子 苓北町 教祖天草支部 本渡市 たまね 浜松信之 熊本市 天草学販 マツヤスポーツ 本渡市 丸三百貨店 給食弘済会 学用品 バレーボール 日用品 飲料水及び容器 ビスケット ぎ じゃがいも たまご スイカ 本渡市 衣類 東京都 その他 福岡市 本渡市 本渡市 熊本市 本渡市 学用品 本渡市 鉛筆 書籍 マッチ 衣類 衣料 ホワンミ 有明町 伊藤滑子 児玉富子 五町内婦人会 熊本市 沢田磯平 西沢トヨ 倉田豊 小川寿美子 福岡市 綱走市愛情銀行 浦野千代子 日台松子 福田義雄 大友トミノ 松原スズ 後藤恵雄 倉谷初枝 尾方タカエ 菊堂雲晴 荒尾高等学校 衣類 田中悦子 荒尾市 **荒尾ライオンズクラブ** 八幡小学校 基田 モミエ 荒尾市役所 岩沢隆康 後藤しげお 福岡市 荒尾市 荒尾市 吹田市 東京都 広島県 杉並区 熊本市 東京都 岡山県 東京都 伊丹市 北九州市 衣類 宮城県 衣類 荒尾市 中野区 衣類 黒倉芳 西城内PTA 石川校区婦人会 新潟県 池崎商店 高松正幸 鹿児島実業高校 藤川俊雄 吉田好江 谷中ふたみ 木山幸男 北九州市 湯浦東老人クラブ 脇島義明 玉垣外科 内海宣子 植木はる **関原明子** 本渡市友愛グループ 坂本村中谷木々子部落一同 第一生命保険相互会社 本渡北小学校児童会 備前第十一被服岛子有明工場 前田茂 千葉県 雑巾 広島県 衣料 東京都 熊本市 神戸市 東京都 三角町 衣類 嵐口 東京都 松戸市 北九州市 福岡市 豊中市 衣料 佐賀県 衣料 衣類 衣類 イリコ 雄北町 食糧品外 タオル 衣類 衣類 衣類 衣頹 タオル 衣料 衣料 聖ヨセフ整肢園 京都市 三浦八水 明石一子 熊飽4Hクラブ 徳田征子 北九州八幡区 中岛婦人会 菊池市隈府婦人会 日田観光開発 **五葉ロータアクトクラブ** 天草生コン 井手嘉城 坂本村鮎婦人会 八代郡 松永政信 河藤縮緬KK従業員一同 日産自動車鶴ケ丘社宅 株式会社ミクロ 高道小学校児童会 玉名郡 松本寿 長崎市 鈴木史子 東京都 松崎婦人会 福岡市 土井マツノ 相良ひさ子 東京都 衣料 滋賀県 ツ木団地婦人会 大川市 横須賀市 輩北郡 京都市 山鹿市農協 球磨郡 東京都 ビール 福岡市

36

東京都

田田

īĦī

球磨郡

衣料

西海町青年団面高分団 長崎県老人クラブ長寿会

用木三紀子 玉名郡 农料

阿蘇高等学校生徒会一同 衣料若杉ミト 菊池郡 衣料

田浦中学校

衣料

合志ノブ 北九州市

· 水源小学校児童会 菊池市

祭严

JAPA.

文化洋栽学院 三角町 棚底商工会議所 ノート 鉛紙

日赤熊本支部 熊本市学生服学生天草支部 本渡市 学生服玉井寛子 福岡市 被服

石けん 東京都 タオル

スカート ブラウス

CONTRACTOR

熊本女子高校 熊本市 雑巾 お居生々堂 大矢野 ノート 一 本資シャツ トレパン 本渡市 被服

(3) 😥

プレー・関係が必要があげた。同時のない。それは実践への展現力を終れても発展するの(者が作成的)、「才し付けてんに分えた何利の報告というを受けなける。」では、「はいる民間が指すって来たけれる発展するの(者が作成的)

《復興の原動力・笑館》

れば、それは関心に並ぶが年たちの義しかない。いつも用かせまで、行名のめざれた。被災地の中で、少しやも、明るさを見づけようと手

玉ねぎ じゃがいも 県教職員組合 熊本市

明の方が多数おられます。 教援下さった方や住所氏名が不 との外に日赤、熊日等を通して

天草被災地の小・中・高校生の表情している。

.为代.

〈学校は影響する所ために〉 海野先の何はよりは、いっ も物容している作家だった。未認にははが無いた實子が使って ある。まだらた作成と「中間に効理したち恋」その検索のすみで がしまい切がしならんでいる。それでもによってはなったれた節 悪に切し無いを関するという。「その下の日はことなった」 またりに無いを関するという。これであるかでは、「おりまた」」 ここの学者の日はそう姓氏でいるようで、海南部域が学校で、





熊本日日新聞社提供昭和四十七年七月十四日

目で見る倉岳水害

《写真編》



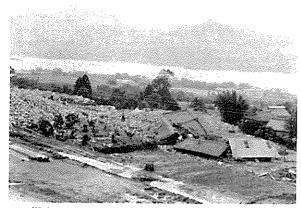
熊本日日新聞社 提供



宮田西ノ原の惨状



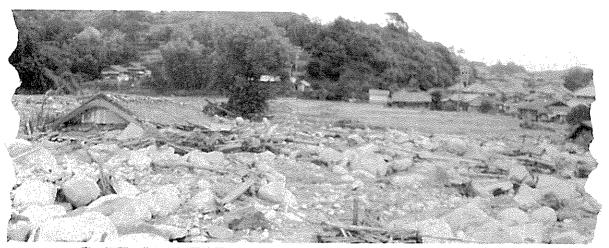
浦 荒平地区・手前の母屋は跡形もない、残ったのは小屋だけ(谷脇一百さん宅)



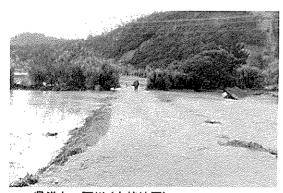
埋もれた才津原地区の民家



家の破片がうず高く積った砥石川 (境目)



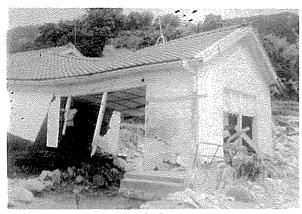
賽の河原と化した西原地区



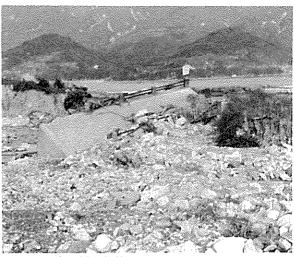
県道も一面川 (小崎地区)



湖? 水の下には稲が…… (浦新田)



えぐり取られた宮田保育園 もし園児がいたら大惨事に……



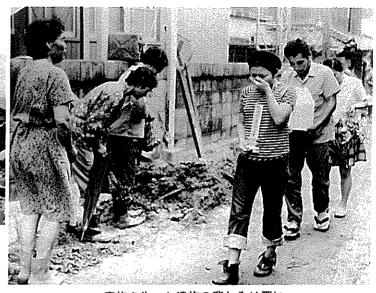
棚底川古野橋も無惨



荒れ狂った浦川、高田さん宅の屋根だけが残った(P44参照)



新築の家も無惨 (棚底) 家ほどもある巨石が襲った。



家族を失った遺族の悲しみは深い (熊本日日新聞社 提供)



どこから手をつけてよいやら (西原地区)

上から鯉や金魚が流れてきた。 それをつかまえるのも子供たち の仕事である。(才津原)



危険であるため、後で砕かれてしまった。

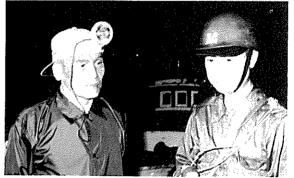




心強い救援隊



負傷者を輸送



山畑前町長も沈痛な面持で打合せ

建 (自衛隊提供) なの



破壊された宮田橋を応急復旧



夜を徹しての作業



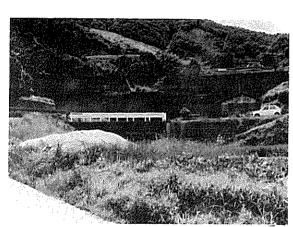
宮田漁協裏で大木を排除



10名の命を奪った西ノ原川上流の大砂防

防災

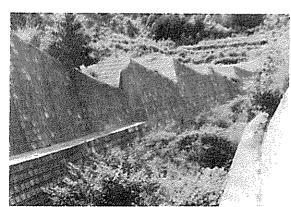
▼財災無額



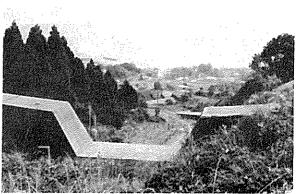
浦川の砂防、妻と祖母の2人を失われた高田 善三郎さん宅はこの砂防の所にあった。



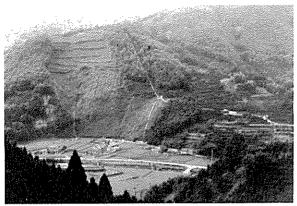
棚底・南平を守る砂防



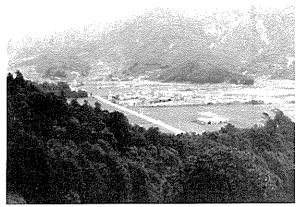
みごとな復旧はなされたが……… 農地は遊ぶ



境目を守る



急勾配の山を背負って住まねばならぬ 倉岳の宿命 (浦)



遠方より見た新町 右方は工場誘致場(現 仮設グラウンド)

篡









宮田小沚潟地区





が 告

あ

めの布石と言えよう。 いて完全に記録される筈である。この小誌は、そのた どは、いずれ刊行されるであろう、 けている被災町民の証言、水害の分析、復興の足跡な ずの中に収めようとは、土台無理な話である。今回欠 あの未曽有の大水害の全容をたかだか五十ページ足ら 水害小誌という感じの本ができあがった。 「倉岳町史」にお

ながらの作業であった。 いった人があったのだろうか。錯覚に陥る度に確認し の平和な町でほんとうに土石流にもまれながら死んで 験していない。これは、倉岳町の出来事だろうか。こ 当時、十九歳の学生で出郷していた私は、水害を体

先生、 申し上げます。 ていただいた熊日新聞、 ことが残念である。

また、

貴重な写真や

資料を提供し 枚数が限られていたため、写真を多く使えなかった 山崎龍瑞さん、その他多くの人々に厚くお礼を 自衛隊、 山並正克さん、中西

昭 56 7 31 企画開発課 歳川

水害 誌

発行日 発 行 倉店 昭和五十六年八月十日 一町役場

僩

集

企

画開

発課

印刷センター

[:]] 編

(〇九六九三) 二十二八五七

「熊本日日新聞社」提供表紙写真は山津波に襲われた中浦地区